

ゆうことみゆきのふくふくトーク
ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

シキナ(ガマ)



「わり、大きなネギ！」ガマ干しの作
業をしている横で来館者が叫んでい
ることがよくあるんだよね。ガマの葉は、根元
部分は水中にあるので白く、水から出ている
部分が濃い緑色なので、一見、巨大な長ネギ
に見えるらしい。ガマの葉の干棚を作ったり、
通路に並べて干す光景は、アイヌ民族博物館
の秋の風物詩のひとつになっています。

ガマは、河岸や池、湖沼などに自生する多
年草の水生植物で、フランクフルトソーセー
ジのような形の穂が特徴的なので覚えやす
い植物だよね。主にゴザの材料として利用さ
れることが多く、床や家の壁などいろんなと
ころに使われる他、赤や黒に染めた木皮を編
み込んだ美しい文様のゴザは、儀礼の際に欠

くことのできない祭具なんだよね。

ガマの採取時期は、八月末から九月中頃ま
だがベスト。

ガマ刈りに初めて行った時の注意事項「雄
は採るなよ。雌だけでいいぞ！」っていわれた
けど、「えっ、雌？雄？どれが雌？」。雄と呼ん
でいたのは穂を付けたもので、茎が一本立ち
して葉を数枚付ける程度なので、ゴザ編みの
素材には向かないんだって。結構、植物を雄
雌で呼ぶことが多いんだけど、利用する方は
決まって雌なんだよね。面白いよね。

昔は、近くの河川や沼にたくさんあったガ
マも、今では、車で三時間以上もかけて刈り
に行くという状態ですが、優子さんはガマ刈
りに行ったことある？



ありまーす。二
風谷で暮らして

いた頃、萱野先生が「キナ
チャ(ガマ刈り)行くぞ〜」
って。水中の白い部分の方
がゴザにした時に綺麗な
ので、胴長を着て沼に入
り長い棒の先に鎌を結び
つけて、なるべく深い所か
ら刈り取るの。すっこく
楽しかったっけ。

ところで美幸さん、ガマ

シキナ(ガマ)

クナチャ(ゴザ)を
編みます



ガマはシキナ(本当の草)という
名前を持つ大切な植物だけど、
なぜか「精神が良くない」という
イメージもあり、沼で繁殖しない
で人間に取り付いて「子種」を食
べてしまうことがあるんだそう
な。だから、予防措置として「自
分は子種なんかかないよ」と言っ
ておき、それでも怖いから、顔を見
られないように後ろを向き、肩越
しに種を撒くんだったって。なんとも
不思議な話だけど、そこがまたア
イヌ文化の魅力の一つかな。

の穂から種が飛び出す瞬間って見たことあ
る？チヨって一突きした瞬間に、ウネウネッ
つてもすっこく面白い動きをして形が崩れ
るの。まるで映画の特撮みたい。で、花材と
して家に飾り、時期がきたらつついて遊ぼう
と思って、穂を切り取った瞬間、萱野先生に
こっぴどく叱られました。

「なんのためにそんなことする?! 来年生えて
くる大事な種を遊びで取るんじゃない!」
忘れられない思い出です。

ただ、アイヌの人びとも穂を採取して種
を撒くことがあったみたい。萱野先生の本
に、その時の呪文が紹介されています。

「オルケシサクベ クネ ナ(私は子孫のな
いものぞ)」。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。